



ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第17話 「部下に説教していたはずが」

【登場人物】

部長

若手



部長 「…まったく、だからお前はダメなんだよ。営業先で喋るのはいいんだけど  
まあ、プレゼンは全然上手くできてなかったじゃないか」

若手 「はい、すみません…」

部長 「すみません、じゃないんですよ。まだ学生気分じゃ困るんですよ  
これだから、若いやつは使えないんだよねあめ」

若手 「はい、申し訳ないです…」

部長 「申し訳ないです、じゃないんですよ。少しくらい言っ返さな  
くれないと俺がパワハラしてるみたいに見えるんですよ」

部長 「パンチがないんですよ、こっぴどくパンチとくるパンチが」

若手 「え？パンチ？」

部長 「そうー上司にもバシッとパンチをアーンんですよー上司に、意見言えない  
様じゃ、」の先やつはけななごですよー」

部長 「まじや段取り良く言っ言っ言っ、」

そして細かい「まじや段取り良く言っ言っ言っ、」今日の営業先でも…」

若手 「部長」

部長 「おっなんだよ」

若手 「部長、オウキタイ行ってきたじゃないですか」

部長 「そうだけじゃ」

若手 「オウキからずっと、その、チャックが開いたままです…ガツンとあいてます」

部長 「はっ…えっ…えっ…あ…あ…これはな、お前が気づくかどうか試してたんだ

オウ」

若手 「そうなんですかーあ、試されてたんですねー」

部長 「そ、そうだよ。そっついっ言いにいっいともバシッと言えるかどうか

試したんだよ」

若手 「なるほどー…気づかなかったですーそっだったのかー…んっそれだったら

「この際今まで思ってた」ことも、言った方がいいですか？」

部長 「お、おお、いいよ、なんかあるのか？なんでも言ってみろー」いバシッと

オウ」

若手 「ありがとうございますーオウキですーオウキ、部長、いつも使ってる猫の筆箱

ありがとうございます」

部長 「おう。娘から貰ったんだ。パパ大事に使ってねって」

若手 「その猫の筆箱です。あれ使うのやめた方がいいと思いますよ」

部長 「何で？」

若手 「だって、もう猫が真っ黒で耳も片方ないですよ。筆箱なのにチャック閉じなくて、ずっと黒い塊がお腹開いてて」「ワインですよ」

部長 「娘がくれたんだからいいだろう！」

若手 「娘さんがくれて、可愛いって言った話。もう10年同じ話してて聞いて聞きましたよ」

部長 「な！」

若手 「娘さんにキモイからって1回捨てられたけど、マンションのゴミ集積所から取り戻したって」

部長 「い、いいだろう！娘からはソレしかもらってないんだから！」

若手 「まあ、気持ちは分かりますよ。俺も彼女にもらった車、大事にしていますも  
ん」

部長 「えー自腹？しかも、アレ買ったの？高いヤツじゃん！  
めっちゃくちゃ高いヤツじゃん！」

若手 「あと、今日してるネクタイなんですけど」

部長 「先週、買ったんだよ」

若手 「よく見たらちっちゃい東京タワーが集まって水玉模様になってるの、  
それ結構タサイですよ」

部長 「え？タサイと思ってたの？可愛いと思って買ったんだけど。てゆうか、  
俺が好きで使ってるんだから別にいいだろ！」

若手 「まあ好きなモノを使う気持ち、分かりますよ。俺もこのネクタイ、彼女に  
5万で買ってもらうって気に入ってるんです」

部長 「5万？え？こっちは30000円だよ。しかも自腹！お小遣いから  
天引きだよ！」

若手 「あと部長」

部長 「まだあるの？？」

若手 「たまたまに語尾が』ですよ〜』ってなる時めんどいじゃないですか?」

若手 「あれ、陰でみんなから、』ですよ部長、まだですよ〜』って言ってるよ(笑)』  
』って言われてますよ」

部長 「そ、そうだったの! 恥ず! そのあだ名恥ずいからやめて!」

若手 「その言い方がすでに恥ずかしいです」

部長 「追い打ちじゃん!」

若手 「それから部長」

部長 「えー。お前止まらねえな! どんどん出てくるじゃん!」

若手 「部長がバシって言えと仰ったので、部長ってタバコ吸われるじゃないですか?」

若手 「いつも喫煙室でタバコ吸うときのアレ。斜め45度上見て、目細めて吸うやつ…カッ」つけてるみたいで、とても気持ちが悪いです」

部長 「しょうがないだろう! タバコ吸うときいつもど〜見て吸っていいかわかんないんだよ!」

若手 「でも、女子社員から、タバ」王子って言われています。

王子ならいいじゃないですか

部長 「それ良い意味じゃないじゃん」

若手 「あと…これは言いたくなかったけど、まあいいが」

部長 「なんだよ、言えよ、こんだけ言われたらあと何言われても変わんないよ」

若手 「あの、僕、いつも部長から怒られてるときは、後ろで中指立てています」

部長 「ん〜それはナニーーそれは意味わかんないーなんの告白なのー」

部長 「それは部長の悪いことじゃないじゃんーあと単純に部長、

それは良くないと思うなー」

若手 「あとナニがから酒臭いです。」「口撃ですな」

部長 「それは、ごめんー自分じゃ気づかないからーそのうちのほうは

言いつけていいからー正直に言いつてー」

若手 「もちろん正直に言つとききましたー」

部長 「え〜何を〜」

若手 「昨日、ガールズバーに行ったこと。奥さんから朝電話があったんで、ちゃんと正直に伝えておきましたー！」

部長 「ちよつとーちよつとーそれは正直に言っちゃだめでしょー！」

若手 「でも、バジつと言いましたよ。部長は口説き方が毎回下手だって」

部長 「やめてよ。恥ずかしいーガールズバーがバレたことより  
もっと恥ずかしいー！」

若手 「すいません部長」

部長 「今度はなにー！」

若手 「僕、10年育ててるアサガオの世話があるので、今日はもう帰ります」

部長 「10年ものアサガオって、もしかして小学生の時の宿題で育てたやつ、  
まだお世話してるの？ー相場じゃその年の冬すら越えずじまわれちゃう  
有名だよー！」

若手 「ええ、毎回種から植えなおしているのよ、今年で10世代目です。  
記録みます？ー」



若手 「絵日記もデータ化してますし、今、タイムラプスプスってのがあつてですね」

部長 「その情熱をもっと仕事に活かしてほしいー！」

若手 「あ、ノアアサガオって種類は庭に植えちゃだめですよ。繁殖力すごいので」

部長 「なにその役立つ、豆知識！もういいよー！」

若手 「了解ですー！じゃあお疲れ様ですー！」

部長 「お、お疲れー明日もちゃんと会社来いよー……  
最近の若者って、結構根気強いんだなあー」